

電子版センターだより

Gunma Prefectural Education Center

群馬県総合教育センター - No.23 -



令和元年11月27日(水)配信

<掲載内容>

	頁
1 「ぐんま教育フェスタ」 令和2年2月1日(土) 開催!	1
2 教育研修員研修の紹介	2
3 小学校プログラミング教育の実施に向けて	4
4 特別支援教育における「学びの連続性」	5
5 幼保こ小連携・接続に関する調査研究 ～夕やけ保育研修会の報告～	6
6 教育相談技術認定について	7
7 総合教育センターへ来所される方へ	8

* 編集後記 *

「ぐんま教育フェスタ」 令和2年2月1日(土) 開催!

「新たな時代の幕開け 未来を拓く学びの提案」

「ぐんま教育フェスタ」は、教育の質の向上につながる講演・研究成果の発表・表彰等を通して、次代を担う子供たちの確かな学力、豊かな人間性、健やかな体の育成に必要な最新の情報を発信し、群馬県の教育の在り方について考える催しです。

開催日時 令和2年2月1日(土) 9:20~15:45 (受付 9:00~)
 ※上記の時間内で自由に入退場いただけます。
 会場 群馬県総合教育センター 伊勢崎市今泉町一丁目233番地2

催し	内容	時間
オープニング・ ぐんま教育賞表彰式	○オープニング ○ぐんま教育賞表彰式(「杉の子賞」入賞者表彰)	9:20~10:00
研究発表	○研究概要展示 (長期研修員・長期社会体験研修員・特別研修員)	10:00~15:45
	○研究発表 (長期研修員・長期社会体験研修員)	①10:10~10:40 ②10:50~11:20 ③11:30~12:00
	特別講演	○演題「真の国際人を育てるために」 講師:ピーター・フランクル 氏
参加者体験・ 展示	○「校旗を作ろうプロジェクト」展示 ○「統計グラフ群馬県コンクール」作品展示 ○「スポーツするえほん」の世界 ・絵本の展示と紹介 ・講演・ワークショップ(12:10~13:50)	10:00~15:45
	○特別支援学校の作業学習製品展示販売	10:30~12:30
	○在外教育施設の紹介及び相談会 ○専門高校による「そば打ち体験」 ○小学校プログラミング教育の教材体験 ○最新ICTガジェット(VR)の体験 ○障害者スポーツの紹介・プチ体験	12:10~13:50

「特別講演」には、事前申込みが必要です。

令和2年1月21日までにFax又はWebでお申し込みください。

詳しくは、Webページをご確認ください。【http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=271】

教育研修員研修の紹介

教育の今日的課題の解決や実践的指導力の向上を目指した研修を通して、教員の資質向上を図るとともに、本県幼児、児童生徒の学力向上と健全育成に資することを目的としています。

長期研修員

- 【目的】 本県の教育課題を踏まえた研修を通して、実践的な指導力や助言力を高めるとともに、研究協力校や地域の中核として指導的な役割を担うことのできる人材を育成します。
- 【内容】
- 国の動向や県教育委員会の指導方針を踏まえて、教育課題の解決に向けた研究及び研修を行います。
 - 研究協力校等の校内研修に積極的に参画し、実践的な指導力や助言力を高めます。
 - 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭（18名）が、各教科、道徳、特別活動、特別支援教育、生徒指導・教育相談、小学校プログラミング教育、高校教育の改善について研究をします。

【研修員のコメント】



「高校教育の改善」という大きなテーマの下、研修に励んでいます。長期研修員として学校を離れ、総合教育センターで過ごす日々は新発見の連続です。論文や文献、先進的な取組事例など学校にいるときは知り得なかったことが多く、とても勉強になっています。知り得た情報はぐんま高校教育新聞でその都度発信していきます。少しでも多くの先生方の力になれるように頑張ります。

県立沼田高等学校 池田成宏



小学校プログラミング教育チームで研究を進めています。私は、プログラミング的思考を育む算数科の指導の工夫について研究しています。先行事例が少ないので、試行錯誤しながら研究を進めています。チームとしての授業実践を基に、教科指導におけるプログラミング的思考を育む新たな授業を提案します。

昭和村立大河原小学校 中嶋香織



中学校国語科で研究を進めています。「聞くこと」の領域で指導と評価の一体化を目指したパフォーマンス評価を研究しています。悪戦苦闘の毎日ですが、少しずつ前進できていると信じて日々を過ごしています。この研究が何かの役に立てばいいなと思っています。

館林市立第一中学校 松元崇敏

長期社会体験研修員

長期社会体験研修では、一年間、県内の企業において業務に取り組み、各企業の組織運営や人材育成などについて研修を行っています。また、キャリア教育を推進するための授業を構想し、研究協力校において実践しました。今年度は7名（小学校3名、中学校1名、高校3名）が各企業で研修しています。



群馬ヤクルト販売株式会社の人材開発部に所属し、従事者育成に関わる各種研修を中心に取り組んでいます。社員が共通の意識をもつことで大きな成果を上げた群馬ヤクルトの取組をヒントに、学校目標を達成するために委員会活動を工夫し、児童が主体的に取り組めるプロジェクトを考える授業を実践しました。
高崎市立乗附小学校 柳田 修平



有限会社農園星ノ環において、主に露地野菜の育成と収穫に携わっています。将来的展望を見据え、会社組織と個人の成長を社員全員が自覚して農業に従事しています。研究協力校では、生徒が職場体験学習を通して得たことと、星ノ環で働く海外研修生の姿から、働くことの意義と、自分自身の今後の生き方を考える授業を実践しました。
沼田市立沼田中学校 原 新



株式会社SUBARUの人事部人事課人材開発係に所属し、自動車部門での人材教育プログラムの企画・運営に携わっています。自動車を生産するためには、多くの工程があり、各工程で責任をもって製造しています。品質の維持は、個々の与えられた役割を果たすことで成り立っています。生徒がこの責任を果たすために必要な能力に気付き、充実した高校生活を送れることを目標として授業実践をしました。
県立藤岡工業高等学校 坂巻 康夫

特別研修員

【目的】 授業・保育実践を通して、教科等の指導力を高めるとともに、研究協力校・園や地域において指導的な役割を担うことのできる人材を育成します。

【内容】 ○幼児、児童生徒の実態に応じた授業・保育実践を通して、指導方法や評価方法の改善に資する研究及び研修を行います。

○積極的に授業・保育公開を行い、教職員の教科等の指導力向上に寄与します。



講義・演習等を通して、最新の教育情報の収集を行うことができます。



模擬授業や協議を通して、授業・保育等の改善のための方策を提案します。

【研修員のコメント】

- ・講義や演習、協議等を通して、スキルアップにつながりました。
- ・校種や専門性の異なる様々な教員と交流ができ、授業構想について客観的に捉え直すことができました。
- ・研修で学んだことを生かし、若手教員へのアプローチを積極的に行うようになりました。

教育研修員研修の成果については、「ぐんま教育フェスタ」で発表します。是非ご覧ください。

教育研修員の過去の報告書はこちら [【http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=192】](http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=192)

小学校プログラミング教育の実施に向けて

来年度から、小学校ではプログラミング教育が実施となります。当センターでは、「小学校プログラミング教育研修講座」として、7月に授業体験を含む実習や、講義・演習を行いました。

研修講座で行った授業体験の内容を紹介します。

7月29日（第1日目）小学校プログラミング教育研修講座

○実習「プログラミング教育の授業体験（基本編）」

次の内容の授業体験や実習をしました。

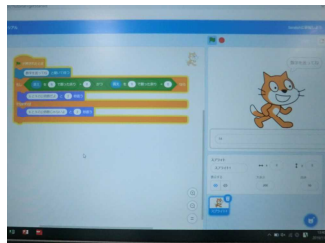
- ・算数科授業「整数の性質」
- ・理科授業「電気の性質とその利用」
- ・アンプラグド教材
- ・ロボット教材
- ・理科の実験教材

ここでは、二つの授業体験について、紹介します。

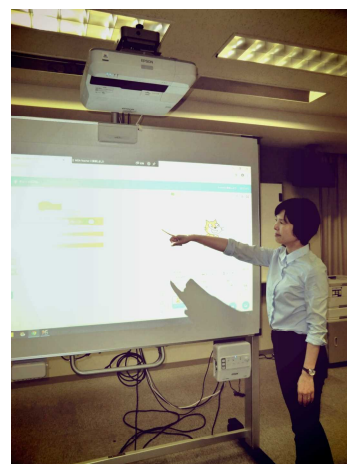
・算数科 第5学年「整数の性質」

公倍数を判別するプログラミングを通して、公倍数、最小公倍数の性質の理解を深める内容で行いました。

ある整数が6と9の公倍数であるかのプログラムを作成しました。また、全体に説明する場面で共有をして、見付け方を考えました。



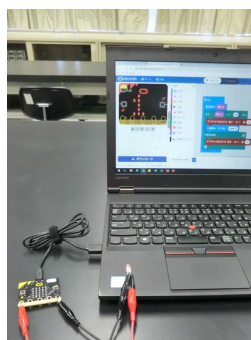
ビジュアル
プログラミングの体験



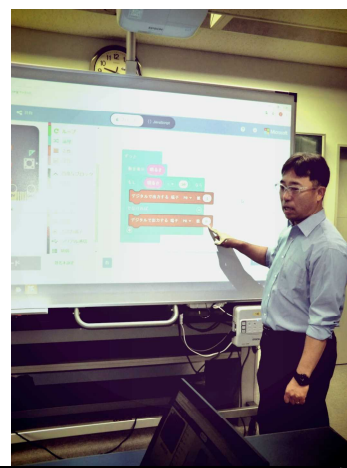
・理科 第6学年「電気の性質とその利用」

プログラミングの体験を通して、身の回りで電気を効率的に利用するために、センサーやプログラムが活用されていることへ目を向けさせる内容で行いました。

実際に点灯や消灯をさせるなどのプログラムを作成し、光センサーを使って街灯を作りました。また、プログラムの仕組みを発表し、身の回りで使われているセンサーについて考えました。



小型コンピュータ
ボードの体験



受講者の声

- ・算数科では、プログラミングの体験に必要なブロックの事前準備が必要だと分かった。
- ・理科では、小型コンピュータボードを活用した具体的な授業を知ることができた。

11月29日（第2日目）の講座では、算数科や理科の他に、国語科や図画工作科の実践例を紹介します。

特別支援教育における「学びの連続性」

特別支援学校学習指導要領改訂のポイントとして、「学びの連続性を重視した対応」が示されました。

1 教科指導における学びの連続性

特別支援学校学習指導要領では、教科の連続性や関連性、内容の系統性、小学校との関連を重視し、整理をしています。



【特別支援教育充実研修講座より】

講義「特別支援学級における学びの連続性を踏まえた教科指導」
講師 県立しらがね特別支援学校 校長 高橋 玲 先生

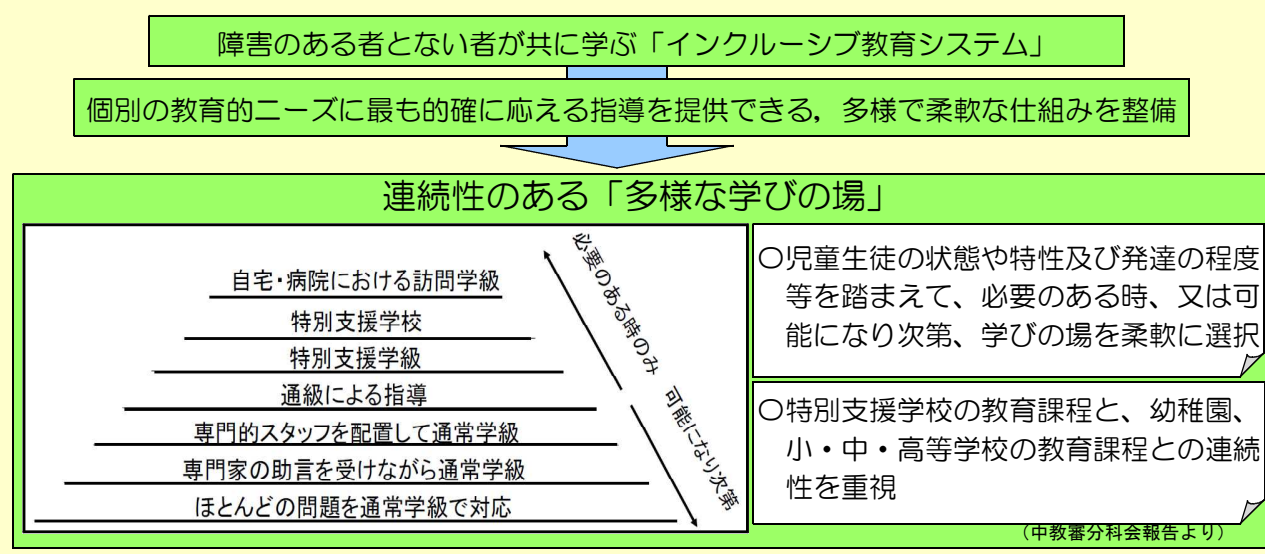
特別支援学校学習指導要領の改訂によって、

- ① 小学校と特別支援学校小学部・中学部といった、**異校種間における学びの連続性を確保**できる。
- ② 小学校の特別支援学級から知的障害特別支援学校中学部へ入学など、**進級や進学に伴う学びの連続性を確保**できる。
- ③ 指導内容の系統性や指導の順序性を踏まえ、長期の展望に立って指導内容を組織することにより、**系統的な学びを保障**できる。
→ そのためには、子供の認知の水準、習得状況や既習事項を適切に把握して、**個別の指導計画を作成し、活用**することが求められる。

	の特別に支援示す学校内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年
		に	に	に	に	に	に
		小学校学習指導要領					
中学部	2段階	A数と計算		●	●	●	
		B図形			●	●	
		C変化の関係				●	●
		Dデータの活用			●	●	
小学部	1段階	A数と計算	●	●			
		B図形		●			
		C測定		●	●		
		Dデータの活用		●			
小学部	3段階	A数と計算		●			
		B図形	●	●			
		C測定		●	●		
		Dデータの活用		●			
小学部	2段階	A数と計算	●	●			
		B図形	●				
		C測定	●				
		Dデータの活用	●				
小学部	1段階	A数量の基礎	●				
		B数と計算	●				
		C図形	●				
		D測定	●				

2 多様な学びの場の連続性

個別の教育的ニーズのある子供に対して、その教育的ニーズに最も確に答える指導を提供するための「学びの場」を用意することが必要です。



「学び」は、障害のあるなし、校種、学び場などの違いによって、はっきり分かれるものではなく、つながっています。「学びの連続性」を保障することが大切です。



幼保こ小連携・接続に関する調査研究 ～夕やけ保育研修会の報告～



幼児教育センターは、平成29年度より「幼保こ小連携・接続に関する調査研究」を行っています。

- 平成29年度：アンケート作成、実施、集計
- 平成30年度：アンケート結果報告（幼児教育センターだより33号）
幼保こ小連携・接続に関する提案（幼児教育センターだより臨時号）
- 令和元年度：幼保こ小連携・接続に関する提案に基づいた夕やけ保育研修会の実施

今回は、今年度実施した夕やけ保育研修会の報告をいたします。

「接続期の教育課程を考える」 高崎健康福祉大学教職支援センター 高梨 瑠子 氏	
○渋川市 7月17日（水） 参加者 84名 ○桐生市 7月29日（月） 参加者 54名 ○甘楽町 8月6日（火） 参加者 40名 ○沼田市 11月13日（水） 参加者 57名	★参加者の声★<幼稚園・認定こども園・保育所等> ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、レベルが高く、どう捉えたらよいか分からなかったが、部分的に見取っていく感覚が理解できた。 ・「修了時の姿」を作成することで、小学校との接続がスムーズにでき、子供自身が過ごしやすい環境になることが分かった。 ★参加者の声★<小学校> ・「修了時の姿」を小学校に送付してもらい、活用することで、小学校でのよいスタートが切れるようになって感じた。 ・「修了時の姿」の具体的な内容を見せていただき、細かい心情なども読み取れるものであることがよく分かった。また、園で細かい指導を行っていることが分かり、小学校での指導に生かしたいと感じた。 ・「修了時の姿」を1年担任の学級経営や授業の参考にすることができた。
『「幼保こ小の連携・接続」の充実が子どもの未来を支える』 日本大学 准教授 田中 謙 氏	
○高崎市 8月19日（月） 参加者 26名	★参加者の声★<幼稚園・認定こども園・保育所等> ・「10の姿」に当てはめるPDCAを園内研修で行っているが、「姿を当てはめる」評価ではないという話を聞くことができてよかった。 ★参加者の声★<小学校> ・今年初めて1年生を担当し手探り状態だった。発達に課題のある子供も多く、連携・接続の難しさを感じていたので、今回の研修会は興味深かった。
「写真から読み取る幼児の姿と学び」 群馬パース大学福祉専門学校 講師 田子 文子 氏	
○館林市 9月2日（月） 参加者 33名 ○長野原町 10月9日（水） 参加者 33名	★参加者の声★<幼稚園・認定こども園・保育所等、小学校> ・一枚の写真から、幼児の思いや育ち、教師の関わり、見取り、環境の在り方など、様々なことを振り返ったり共有したりできることが分かった。 ・教師の視点、幼児の視点の両面から捉えることで、幼児の育ちが見え、保育の見直しにもつながると感じた。 ・写真一枚で、子供についての理解だけでなく、保育者同士の語り合いのきっかけにつながるということを学んだ。園でも取り入れたい。

幼児教育センターでは、来年度以降も、夕やけ保育研修会で幼保こ小連携・接続に関する研修を企画していく予定です。

ご不明な点は電話又はメールでお問い合わせください。

TEL 0270-26-9203（幼児教育センター直通）

E-mail youji@edu-g.gsn.ed.jp

※詳しくは、Webページをご覧ください。【 http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=74 】

教育相談技術認定について

教育相談技術認定制度は、昭和43年に創設され、半世紀となる歴史をもつ群馬県独自のものです。様々な課題や悩みを抱える子供たちや保護者との関わりにおいて、教育相談の考えを学んで信頼関係づくりに生かしていきませんか。

教育相談技術認定には、初級、中級、上級があります。

- 初級・・・生徒指導・教育相談の基礎的な理論・技術を習得している人
- 中級・・・基礎を踏まえて専門的な理論・技術を習得している人
- 上級・・・生徒指導・教育相談を校内の指導的立場で実践をしている人

初級、中級では多くの方からの申請があります。中級取得後、指導的立場で活躍されている方々は、上級取得をぜひ御検討ください。多くの方々の申請をお待ちしています。

令和元年度教育相談技術認定の日程等は以下のとおりです。

令和元年度 群馬県教育研究所連盟 教育相談技術認定

目的

学校（幼稚園、幼保連携型認定こども園を含む）及び教育研究所における教職員の生徒指導・教育相談技術の向上を図り、もって教育課題の解決に資する。

申請資格

申請資格は、各級の①と②の要件を満たす者とする。

(1) 初級

- ① 学校又は教育研究所の教職員として2年以上の勤務経験を有する者
- ② 「教育相談初級研修」をすべて受講している者

(2) 中級

- ① 初級の認定後、学校又は教育研究所の教職員として3年以上の勤務経験を有する者
- ② 「教育相談中級研修」をすべて受講している者

(3) 上級

- ① 中級の認定後、学校又は教育研究所の教職員として3年以上の勤務経験を有する者
- ② 次のア～ウを合計して3年以上の経験年数を有する者
 - ア 生徒指導主事、生徒指導主任の経験
 - イ 教育研究所における相談業務（年間を通して週1回以上行ったもの）の経験
 - ウ 群馬県総合教育センター及び教育研究所における生徒指導・教育相談研修の講師・指導助言の経験（年1回以上の経験を年度ごとに1年とする）

申請期間及び締切日

(1) 持参する場合

- ・ 申請期間 令和元年12月4日（水）・5日（木）
- ・ 受付時間 10:00～17:00

(2) 郵送する場合

- ・ 令和元年12月5日（木）必着

申請書について

申請書は、各教育研究所及び各校・園に配布した実施要項をコピーして使用してください。また、当センターWebページからもダウンロードすることができます。

【 http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=383 】

防寒対策のお願い

冬にかけて、厳しい寒さが予想されます。

当センターでは、適時空調を調整し、来所された方が、快適な環境の中で研修等に参加できるよう努めております。しかしながら、温度の感じ方には、個人差があり、暖房を使用していても寒さを感じる場合があります。

研修等でお越しになる際は、温度調節が可能な服装（上着、ひざ掛け等）でお越しください。

御理解・御協力をお願いいたします。

交通事故防止に御協力を

教育センター敷地内は、車だけでなく、歩行者の通行もあります。また、教育センター周辺には、団地や住宅地があり、多くの車や歩行者、自転車の通行があります。

特にこれからの時期は、日暮れが早くなり、交通事故の危険性が高くなりますので、車を運転される際は、交通事故防止に御協力をお願いいたします。

* 編集後記 *

早いもので、令和の最初の年も、残すところ一ヶ月あまりとなりました。

各学校・園では、たくさんの行事があった実り多い2学期のまとめの時期となり、大変お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

電子版センターだより23号では、「教育研修員研修の紹介」「小学校プログラミング教育の実施に向けて」「学びの連続性とは」「幼保こ小連携・接続に関する調査研究」「教育相談技術認定について」等、各担当係から最新の情報を掲載しました。

これからの教育活動に御活用いただけると幸いです。

また、「ぐんま教育フェスタ 令和2年2月1日（土）開催！」にあたり、今年度の概要を掲載いたしました。「新たな時代の幕開け 未来を拓く学びの提案」をキャッチコピーに、最新の情報を発信いたします。子供たちのために、群馬の教育についてたくさんの方々々と語り合える場となればと思います。

多くのみなさまの御来場を、心よりお待ちしております。

（文責：T.S）